

対象年度	H17	作成部課室	保健福祉部健康対策課	関係部課室	保健福祉部業務課
------	-----	-------	------------	-------	----------

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1 - 1 - 5	政策名	生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組
------	-----------	-----	-----------------------------

政策概要	健康が日々の豊かな生活のみならずであることから、一人ひとりが生涯にわたって質の高い生活を送れるよう、ふだんの健康づくりや病気の予防、個々人の状態に応じた健康の増進・維持を目指します。
------	---

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標	達成度
1	健康づくりに関する意識の向上 一人ひとりが生きがいを持ち、充実した人生を健やかに安心して暮らせるよう健康づくりに関する積極的な意識の啓発を図ります。	健康寿命(65歳時の平均自立期間)	...
2	生活習慣病の早期発見と予防 生涯を通じて健康な生活を送れるよう、食習慣、運動習慣、喫煙、飲酒などの生活習慣が関わるがん、心臓病、高血圧、糖尿病などの生活習慣病について、早期発見や予防などの適切な対策を講じます。	健康寿命(65歳時の平均自立期間)	...
3	歯と歯ぐきの健康づくり 80歳になっても20本以上の自分の歯を保つことを目標とした「みやぎ8020運動」の達成が図れるよう、一人ひとりの健康状態やライフスタイルに応じた歯と歯ぐきの健康づくりを目指します。		
4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及 結核やインフルエンザ、0 - 157等の感染症の予防及びまん延の防止を図るとともに、感染症に対する正しい理解のための普及啓発を進めます。		
5	難病患者等の健康維持の支援 原因が不明で治療方法が確立されていない病気の患者や原爆被爆者がこれまでと同じように住み慣れた地域で生活でき、健康が維持できる支援体制づくりを目指します。		
6	地域リハビリテーションサービスの提供 年齢を重ねることにより体力が衰えた方や身体に障害を有する方が、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるように、その方に応じた各分野のリハビリテーションサービスが総合的に提供できる体制づくりを目指します。	健康寿命(65歳時の平均自立期間) 65歳以上人口の中で重度要介護者数(介護保険の要介護度4及び5の認定を受けている人の数)の占める割合	...
7	薬物乱用防止啓発活動の推進 麻薬、覚せい剤、シンナー等の薬物乱用防止のため、行政のみでなく、事業者、民間団体、県民等社会を構成する全ての主体が一体となり総合的な対策を講じていきます。		

達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できないため判定不能)

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

	第5回(H17)	参考:第1~4回の推移	第4回(H16)	第3回(H15)	第2回(H14)	第1回(H13)
重視度(中央値、点) A	80.0	重視度 A	70	75	75	75
満足度(中央値、点) B	60.0	満足度 B	60	60	60	60
かい離 A-B 【かい離度】	20.0 【高い】	かい離 A-B 【かい離度】	10 【中】	15 【中】	15 【中】	15 【中】
満足度60点以上の回答者割合(%)	50.2	満足度60点以上の回答者割合	60.1	59	60.4	-

かい離:極めて高い(40点以上), 非常に高い(30点以上~40点未満), 高い(20点以上~30点未満), 中(10点以上~20点未満), 低い(10点未満)

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第1~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切 概ね適切 課題有

A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 適切 ・生涯を健康に暮らすためには、健康を増進し発病を予防する「一次予防」、疾病の早期発見・早期治療を図る「二次予防」、疾病の適切な治療や機能の回復・維持を図る「三次予防」に係る対策を推進していく必要がある。 ・各施策の概要は上記記載のとおりであり、政策を実現するため7施策全てが必要と認められる。
【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・目的、対象者に応じた事業が適切に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。
A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 適切 ・本政策は、県民満足度60、重視度80となっており、かい離度が20と高くなっている。また、全ての施策においてもかい離度が高くなっていることから、県民が必要とする政策であると判断する。 ・県民の優先度が高いのは施策1、2、6である。施策3、4、5、7は優先度は比較的高くないが、社会経済情勢から必要性が高いと判断する。 ・その中で、施策1、2、6は特に必要性が高いと判断し、その必要性を「大」とした。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適した施策か	必要性総括	
	優先度 (直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第5回 34.2%	2位	・本施策の優先度は 7施策中 2位である。	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。	大	
	第4回 23.6%	2位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。			
	第3回 23.8%	2位	【結論】必要性: ある程度感じている			
2	44.2%	1位	・本施策の優先度は 7施策中 1位である。		・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。	大
	43.5%	1位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。			
	42.6%	1位	【結論】必要性: ある程度感じている			
3	1.6%	7位	・本施策の優先度は 7施策中 7位である。			・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。
	3.5%	7位	・本施策のikai離は 22.5点と 高い。			
	2.8%	7位	【結論】必要性: 比較的感じていない			
4	2.2%	6位	・本施策の優先度は 7施策中 6位である。	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。		
	3.9%	6位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。			
	4.3%	5位	【結論】必要性: あまり感じていない			
5	3.5%	4位	・本施策の優先度は 7施策中 4位である。		・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。	
	5.9%	4位	・本施策のikai離は 30.0点と 非常に高い。			
	6.5%	4位	【結論】必要性: ある程度感じている			
6	10.8%	3位	・本施策の優先度は 7施策中 3位である。			・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。
	14.3%	3位	・本施策のikai離は 25.0点と 高い。			
	15.3%	3位	【結論】必要性: ある程度感じている			
7	2.6%	5位	・本施策の優先度は 7施策中 5位である。	・急激な高齢化とともに生活習慣病に起因した寝たきり等の要介護者が増加しており、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、これまでも増して健康を増進し、病気を予防するための県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援することが必要である。 ・急激な高齢化とともに疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加しており、生活習慣病の早期発見と予防対策が従来にも増して重要な課題となっている。 ・県民一人ひとりの主体的な取組を支援し、発病を予防する一次予防及び健診等による病気の早期発見・早期治療を図る二次予防を推進することが必要である。 ・平均寿命の大幅な伸びにより人生80年時代を迎え、歯と歯ぐきの健康は生活の質の向上に重要な要件である。 ・「みやぎ8020運動」を推進し、県民一人ひとりの健康状態やライフステージに対応した歯と歯ぐきの健康づくりを推進していくことが必要である。 ・結核は、現在でも新規患者が毎年3万人を超えている状況であり、依然として我が国最大の感染症である。 ・さらに、インフルエンザやO-157、感染性胃腸炎等の感染症は、流行時には多数の感染者が短期間で発生することから、結核・感染症の予防と正しい知識の普及啓発を図ることが必要である。 ・難病患者は増加傾向にあり、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが求められていることから、引き続き支援していくことが必要である。 ・高齢者・障害者等が、地域の中で当たり前の生活を送ることができるような支援体制の構築が求められている。 ・特に、高齢化の進展とともに要介護高齢者等が増加することから、こうした方々に適切なりハビリテーションサービスを提供して障害の維持・改善を図り、自立した生活や社会参加等を実現することが求められているが、本県のリハビリテーション資源(施設、スタッフ等)は全国的に下位に位置しており、この充実に向けた取組が必要である。 ・覚せい剤等の薬物乱用は、一般市民層への浸透、青少年の乱用や主婦等女性検挙者の増加傾向が顕著になってきている。また、薬物乱用者の低年齢化も深刻な社会問題になっていることから、本施策を継続的に取り組む必要がある。		
	4.6%	5位	・本施策のikai離は 20.0点と 高い。			
	3.8%	6位	【結論】必要性: あまり感じていない			

必要性のランク【結論】:非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 課題有
 ・指標としている「健康寿命」は指標としてはふさわしいと考えられるが、現況値を算出できないことから、新たな指標の設定を検討している。
 ・施策6に政策評価指標「65歳以上人口の中で重度要介護者数(介護保険の要介護度4及び5の認定を受けている人の数)の占める割合」を設定し、施策を適切に評価できるように改善した。
 【重視すべき施策に指標が設定されているか】 適切
 ・必要性を「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策1	施策2	施策6
政策評価指標達成度	判定不能	判定不能	判定不能	判定不能
県民満足度	概ね有効	有効	有効	有効
社会経済情勢	概ね有効	概ね有効	概ね有効	有効
全体	概ね有効	概ね有効	概ね有効	有効

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・A-1 政策の必要性は高いと判断する。施策の設定は適切である。
 ・A-2 ほとんどの指標が施策の有効性を評価するうえで適切だが、現況値を毎年算出できないものもある。適切な評価のため新たな指標を検討する。
 ・A-3 満足度60点以上の回答者の割合は50%であり、その他社会経済情勢から、施策は概ね有効だったと判断する。
 ・A-1~3の各項目を総合的に判断し、「概ね適切」と判断した。

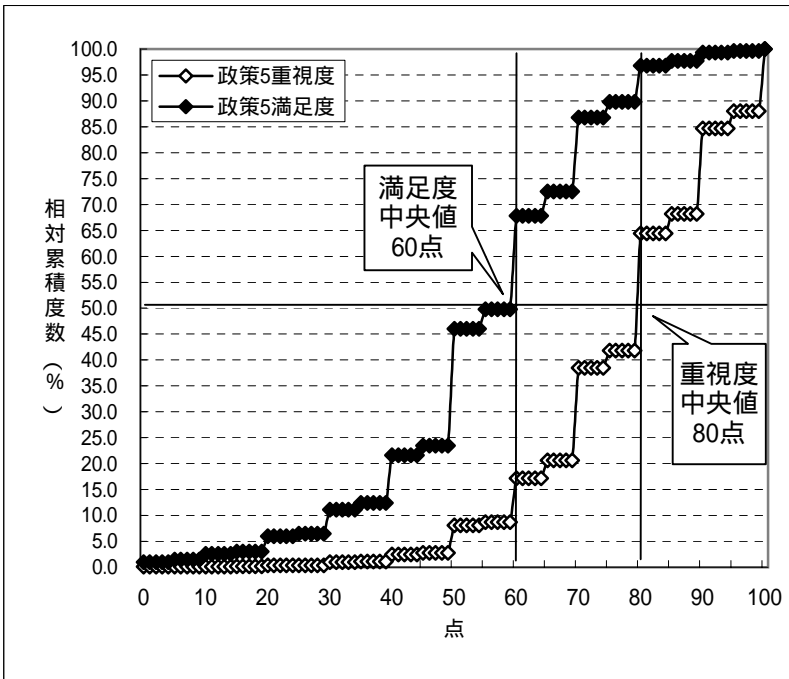
対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 5

政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 89.9 高認知度 43.0

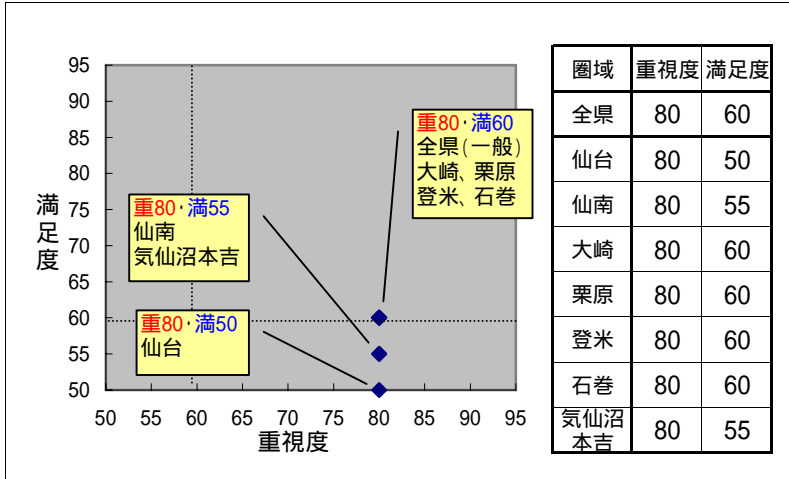


高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心がある」、「ある程度関心がある」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っている」、「ある程度知っている」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	80	80	80	60	60	60
第1四分位	-	-	-	50	50	50
第3四分位	-	-	-	70	70	65
四分偏差	-	-	-	10	10	7.5

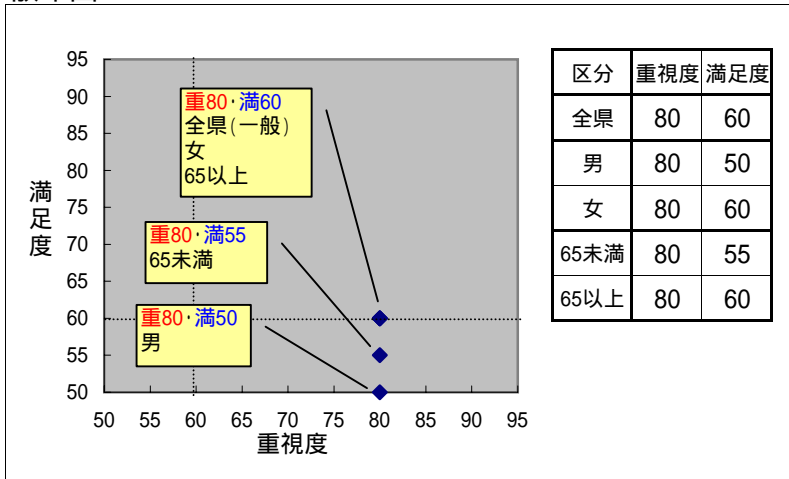
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	80	80	-	50	60	-
仙南	80	80	-	55	57.5	-
大崎	80	80	-	60	60	-
栗原	80	90	-	60	60	-
登米	80	85	-	60	65	-
石巻	80	80	-	60	55	-
気仙沼本吉	80	80	-	55	60	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	80	-	-	50	-	-
女	80	-	-	60	-	-
65未満	80	-	-	55	-	-
65以上	80	-	-	60	-	-

対象年度 H17

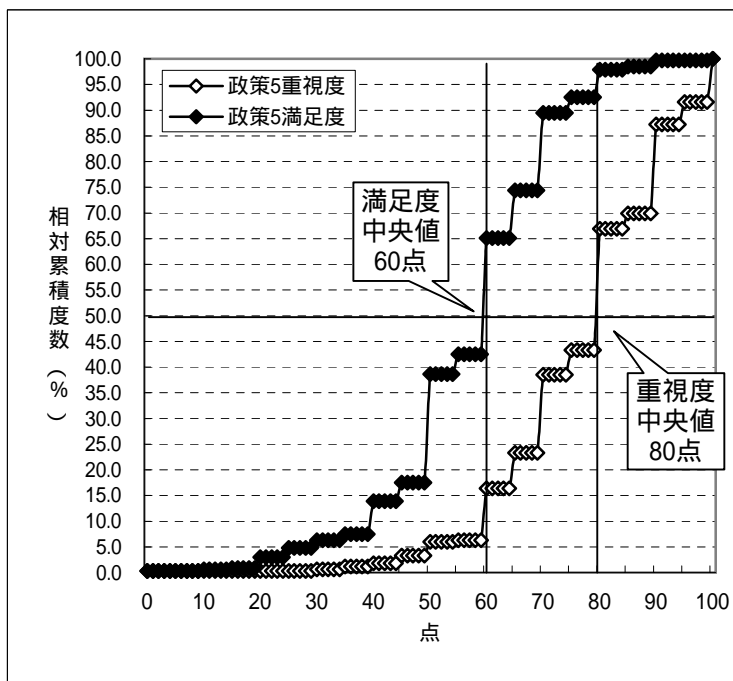
政策番号 1 - 1 - 5

政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

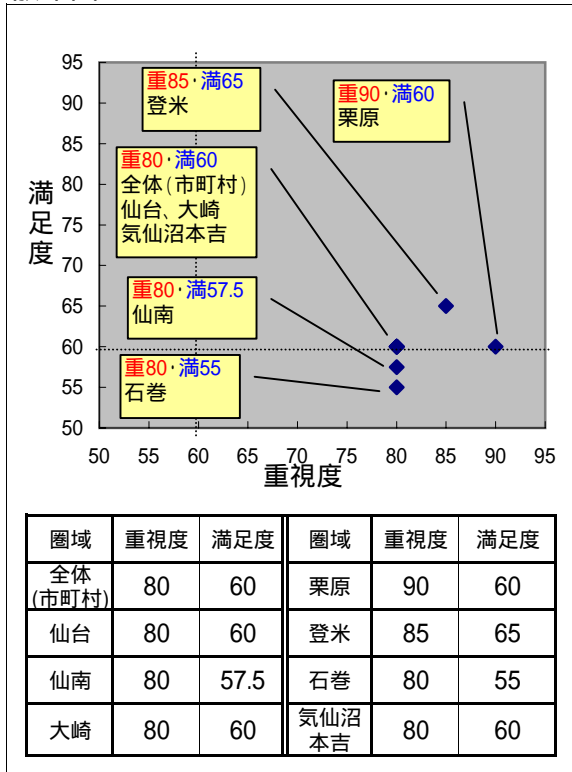
(2) 有識者(市町村職員)満足度調査結果

高関心度 88.9

高認知度 57.1



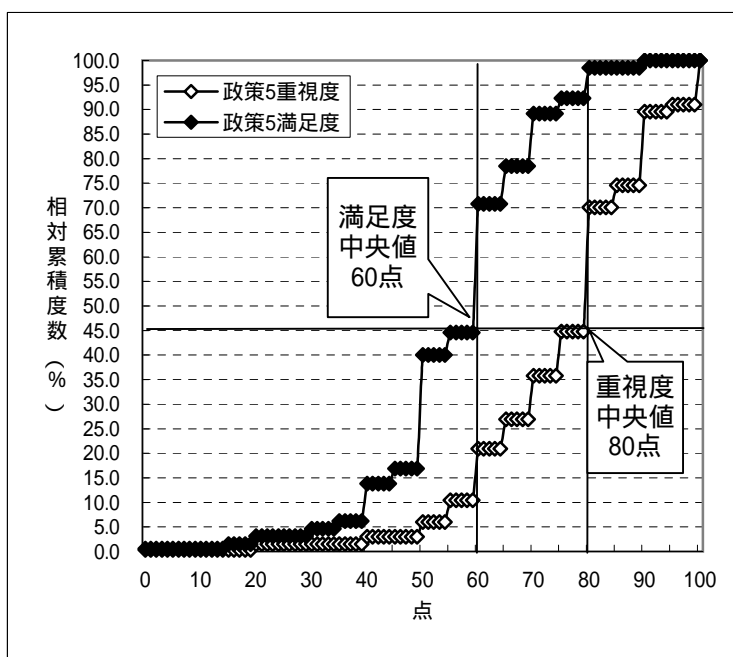
散布図



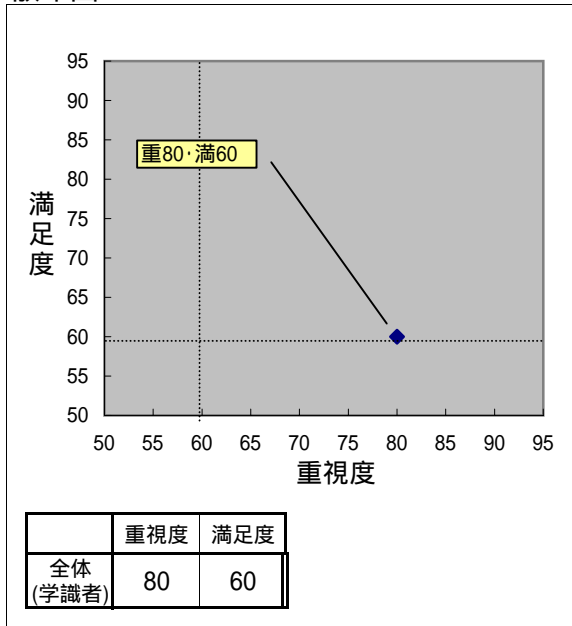
(3) 有識者(学識者)満足度調査結果

高関心度 88.2

高認知度 54.7



散布図

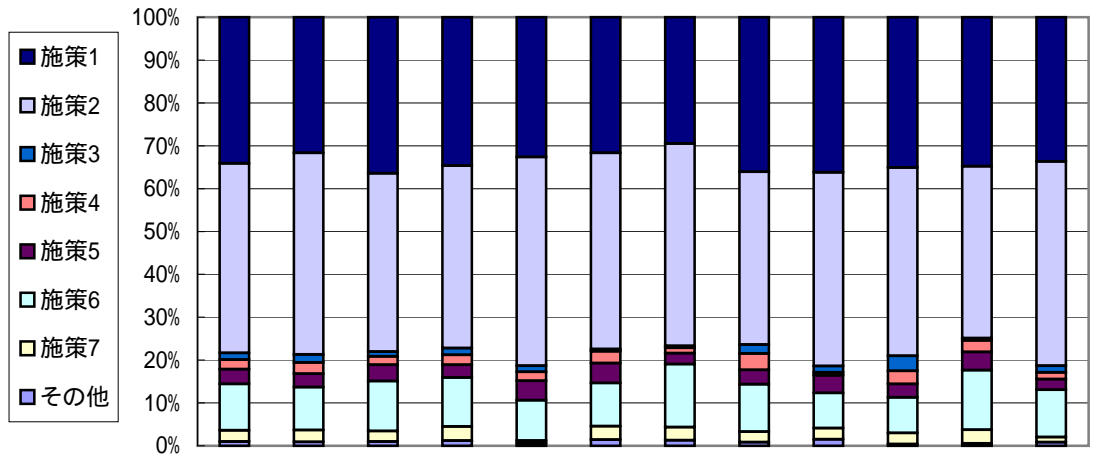


対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 5

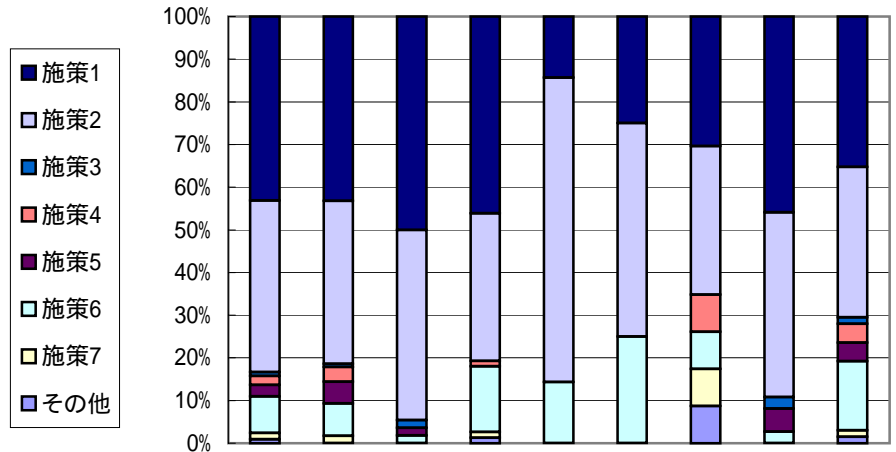
政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉
施策1	健康づくりに関する意識の向上	34.2	31.7	36.4	34.7	32.7	31.7	29.5	36.0	36.2	35.1	34.8	33.7
施策2	生活習慣病の早期発見と予防	44.2	47.1	41.6	42.6	48.7	45.9	47.3	40.3	45.1	43.9	40.1	47.6
施策3	歯と歯ぐきの健康づくり	1.6	1.9	1.1	1.6	1.4	0.5	0.4	2.1	1.5	3.5	0.5	1.6
施策4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及	2.2	2.6	1.9	2.3	2.1	2.8	1.3	3.8	0.7	3.1	2.7	1.6
施策5	難病患者等の健康維持の支援	3.5	3.1	3.8	3.0	4.6	4.6	2.5	3.4	4.1	3.1	4.3	2.4
施策6	地域リハビリテーションサービスの提供	10.8	10.0	11.7	11.4	9.4	10.1	14.8	11.0	8.2	8.3	13.9	11.1
施策7	薬物乱用防止啓発活動の推進	2.6	2.8	2.4	3.3	0.7	3.2	3.0	2.5	2.6	2.6	3.2	1.2
	その他	1.0	0.9	1.0	1.2	0.5	1.4	1.3	0.8	1.5	0.4	0.5	0.8

(5) 有識者(市町村職員・学識者)満足度結果(施策別・優先度1位割合)



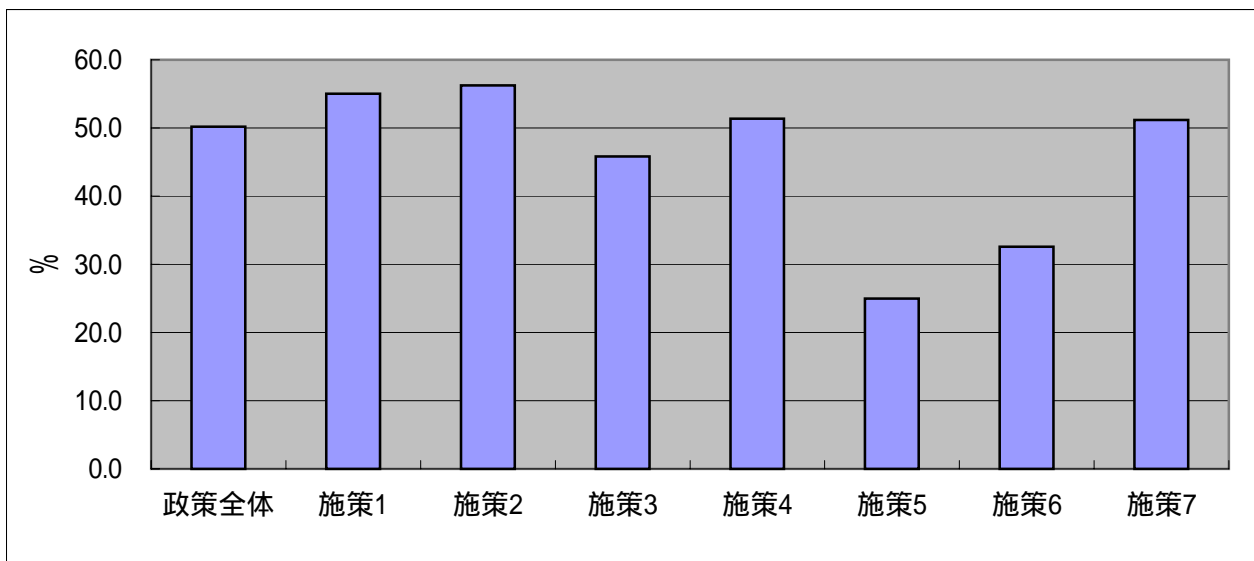
施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉	
施策1	健康づくりに関する意識の向上	43.2	43.2	50.0	46.2	14.3	25.0	30.4	45.9	35.3
施策2	生活習慣病の早期発見と予防	40.2	38.1	44.6	34.6	71.4	50.0	34.8	43.2	35.3
施策3	歯と歯ぐきの健康づくり	0.9	0.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	1.5
施策4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及	2.1	3.4	0.0	1.3	0.0	0.0	8.7	0.0	4.4
施策5	難病患者等の健康維持の支援	2.7	5.1	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	4.4
施策6	地域リハビリテーションサービスの提供	8.6	7.6	1.8	15.4	14.3	25.0	8.7	2.7	16.2
施策7	薬物乱用防止啓発活動の推進	1.5	1.7	0.0	1.3	0.0	0.0	8.7	0.0	1.5
	その他	0.9	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	8.7	0.0	1.5

対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 5

政策名 生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組

(6) 政策・施策満足度60点以上の回答者割合(一般県民、単位:%)



施策番号	施策名	第5回							
	政策全体	50.2							
施策1	健康づくりに関する意識の向上	55.0							
施策2	生活習慣病の早期発見と予防	56.3							
施策3	歯と歯ぐきの健康づくり	45.8							
施策4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及	51.4							
施策5	難病患者等の健康維持の支援	25.0							
施策6	地域リハビリテーションサービスの提供	32.6							
施策7	薬物乱用防止啓発活動の推進	51.2							